

ノロウイルスによる 感染性胃腸炎に嚴重注意を

ほけせん便り 127号
保健管理センター長 立石 博高
2012年12月12日発行 資料提供 井上医師

この冬は、ノロウイルスによる感染性胃腸炎が猛威を振るうと予測されています。ノロウイルスの遺伝子には、新たな変異が報告されており、大きな流行になることが危惧されます。



概要

- ◆ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、新しい病気ではありません（1968年発見；冬季に集中）。
- ◆今冬は、ウイルスの変異（GII/4変異株）が報告され、病原性変化や感染力増大の可能性が示唆されています。
- ◆潜伏期間：24～48時間。
- ◆主症状：吐気、嘔吐、下痢、腹痛、発熱軽度。
- ◆経過と転帰：症状が1～2日続いた後、治癒。
- ◆死亡は患者10万人あたり1名程度とされています。
- ◆青年・壮年層においては重症化は稀ですが、乳幼児・小児・高齢者・重篤な基礎疾患を有する患者等にとっては、致命的疾患になる事があります。特に、適切な治療が得られない場合の脱水は危険です。

感染予防

- ◇日常生活の中での感染予防：手洗いが有効です。
 - ◇手洗いの方法：常に爪を短く切って、指輪等を外し、石けんを十分泡立て、ブラシなどを使用して洗浄します。すすぎは温水による流水で、十分に行います。タオルの共用をしてはいけません。
 - ◇食品の加熱調理：食品の生食を避け、加熱調理した食品を食べるようにしましょう。カキの生食は厳禁です。
 - ◇吐物や下痢便の適切な処理：重要です（以下を参照）。
- <http://idsc.nih.go.jp/disease/norovirus/taio-a.html>

感染経路（経口感染；感染力強く、以下の事例）

- ◆汚染されていた貝類（二枚貝、特にカキ）を、生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合 【食中毒の側面】
- ◆食品取扱者（食品製造等に従事する者、飲食店の調理従事者、家庭で調理を行う者など）が感染しており、その者を介して汚染した食品を食べた場合 【食中毒の側面】
- ◆患者の糞便や吐物から二次感染した場合 【感染症の側面】
- ◆吐物や下痢便の処理が適切に行われなかったために残存したウイルスを含む小粒子が、掃除などの物理的刺激によって舞い上がり、それを間近とは限らない場所で吸引し、経食道的に嚥下して消化管へ至った場合（塵埃感染） 【感染症の側面】
- ◆家庭や共同生活施設などで、ヒトからヒトへ直接感染した場合 【感染症の側面】

診断と治療

- ◇診断：臨床症状からだけでは特定不可。ウイルス学的に診断。
- ◇治療：有効な抗ウイルス剤なし。脱水症状がひどい場合の輸液など、対症療法を実施。

図1. 感染性胃腸炎の年別・週別発生状況（2002～2012年第47週）

